InnovationS-i

2012年6月8日（ 金 ）　　フジサンケイビジネスアイ

InnovationS-i

ベンチャー、ニュービジネス振興で日本を元気に

日本ニュービジネス協議会連合会

全国のニュービジネス協議会で構成される「日本ニュービジネス協議会連合会（ＪＮＢ）」。ニュービジネス協議会はニュービジネス振興のための「政策提言」「研究・情報提供」「起業家の発掘」「起業家の育成・支援」等を行っている。北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州の７つの広域協議会と、41の都道府県単位協議会があり、会員総数は3000人強を誇る。そこで、本年４月１日に公益社団法人に移行した同連合会の新会長に就任した池田弘氏＝写真＝に、同連合会の目指すものと新会長としての今後の抱負を聞いた。

――日本ニュービジネス協議会連合会は今年４月１日に公益社団法人になりました

社会のためにより公益性重視で社会貢献できるような事業展開をしていきたいと思います。ニュービジネス協議会の活動理念であるベンチャー、ニュービジネス支援で新しいビジネスを起こし、経済を活性化していきたいと思います。証券市場も大変厳しい環境ですが、新興市場、グリーンシートを含めて、もう少し活発にリスクマネーが動くような仕組みづくりに関して政府への提言や民間とのコラボレーションを展開していきたい。企業家だけではなく、学生も含めて新しいベンチャーが起きる運動をしていきたいと思います。具体的には新・再生エネルギーや医療・福祉系で、ニュービジネスが必要な成長が期待できる分野に関する学習機会（セミナー含む）等を提供していきたいと思います。

――地域の元気を提唱されています

例えば私は新潟という「地域」が元気になることで日本が元気になるという活動を生涯やってきているわけですが、こういうことの提案をひとつのモデルとして全国に普及できればと思います。オリジナリティの高い地域があって、地域が雇用を拡大していくことが日本の元気にとって大切なことだと思います。そのポイントが昨年の３．11の東日本大震災で再認識した「絆」だとか日本人の本来持っている「連帯」ではないでしょうか。経済も人間の幸せ、個人の幸せをサポートするためにあるものです。残念ながら日本は若者の７割が未来に対して不安を感じ希望がないという残念な社会になっています。そこに「絆」「連帯」「家族」があり経済的に自立し、いろいろな地域からやる気のある人材が輩出され地域をリードしていく。そのためにも地域が活性化していることが必要で、私たちの活動のひとつの柱として地域活性を位置付けています。これを全国各地へ県単位でも、組織づくりを含めて支援していくことが会長としての私の大きな柱と考えています。

――地域を元気にするために必要なことは

今、大卒の就職難、雇用のミスマッチが問題とされており学生も大変な時代だとは思いますが、世の中全体が安定志向といいますか、自分で起業してチャレンジしようという気概が薄くなっている。この意識改革から始めなければならないと感じます。大学を卒業して20社30社受けても就職できない、門前払いをされるのはけしからんと学生も親御さんも社会も問題視しますが、就職という安定を求めるのではなく、優秀な学生こそベンチャーにチャレンジしてもらいたい。それが社会の活性化に繋がる。戦後の荒廃した社会から雨後の筍のようにベンチャー起業家が出て日本発展の原動力となった。こうしたチャレンジを是とする社会、チャレンジしやすい社会をつくらなければならない。地方銀行・都市銀行などの金融機関がリスクマネーの許容範囲を大きくしたり、行政もベンチャーが育つような環境づくりを応援する。たとえ起業に失敗しても失敗ではなく、経験を積んだんだ、素晴らしいことなんだという見方で、２度３度チャレンジできるような風土をつくることも必要です。

――今後の展望について

日本の国づくりは県単位で、できていますので、今後も県単位をベースとしたニュービジネス協議会の組織づくりと組織強化に注力していきたいと思います。現在の会員総数は3000人強ですが、近い将来には１万人の組織を目指します。私たちニュービジネス協議会は事業革新をする、ニュービジネスをするなど進取の精神を持つ優れた経営者の集まりなので、会員となって情報交換したり、学んだり、ニュービジネスの情報をいち早く収集するなど、共に成長していきたいと考える方にはとても有意義で刺激を得られる組織だと思いますよ。

公益社団法人
日本ニュービジネス協議会連合会
〒107－0052　東京都港区赤坂１－６－８
井上赤坂ビル３階
☎03・3584・6077
ＦＡＸ03・3584・5430